

令和5年度 西米良村立西米良中学校 自己評価書及び学校関係者評価書

| 学校の教育目標 | | 社会性を身に付け、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成 | | 学校経営ビジョン | 菊池の教えを基盤に、保護者や地域の方々との連携・協働の下、Well-beingを意識した知育・徳育・体育の充実とその調和を図ることにより、「社会性を身に付け、自ら考え、主体的に行動する生徒」を育成する。 | | |
|-----------------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【 4段階評価 A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待を下回る D：改善を要する 】 | | | | | | | |
| 評価項目 | 重点目標 | 方策・手立て | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善策等 |
| | | | 評価 | 成果と課題 | 評価 | 意見 | |
| 1 確とかな上学力の定着 | (1) ICTを有効活用した授業改善 | 個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。 (学校の学びと家庭の学びをつなぐコネクト学習の充実) | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ コネクト学習予習型を授業実践に取り入れ、予備学習の時間短縮及び生徒のレディネスの把握につながった。生徒の理解度を把握した上で、授業を行うことができた。 ○ Jamboardを用いることによって、書くことが苦手な生徒も他の生徒の考えや意見を参考にし、思考することができた。 ○ 文字フォントをUDデジタルにし、視覚的な配慮をした。また、生徒の思考に沿った授業、板書の工夫を行った。 ○ テストの結果を受けて、生徒の苦手を分析した上で、重点的な指導に生かすことができた。授業の様子や振り返り等を通して、授業改善に取り組むことができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度から、小中一貫校になるようであり、今年度までとは違う状況も出てくると思われるが、生徒たちがこれまで同様学習したり、体験したりできるように頑張っていた。 ○ 自宅でタブレットを使用する際に、Wi-Fi環境がよくない家庭があるのを知り、確認をお願いした。 ○ 3年生は、ほぼ進学先が決定したとのことでもよかった。高校生活の向けての準備と併せて、卒業式までしっかりと学校生活を送ってもらいたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程を編成する際に一月および1週間に複数の行事が重ならないよう考慮し、生徒及び教師の負担軽減を図る。 ○ 授業を展開する際に、学習内容と生徒の実態に応じて、デジタルとアナログを選択、または併用するなどの指導方法の工夫が必要である。 ○ 授業を展覧する際に、学習内容と生徒の実態に応じて、デジタルとアナログを選択、または併用するなどの指導方法の工夫が必要である。 |
| | (2) 分かりやすい授業の充実 | ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。 | | | | | |
| | (3) 指導と評価の一体化による学びの定着 | 各種テストの結果やアンケート結果を指導に反映させ、確実な学びの定着を図る。 | | | | | |
| 2 豊かな心の醸成 | (1) 望ましいコミュニケーション能力の育成 | 社会性の育成と多様な人間関係や異集団に対応できる望ましいコミュニケーション能力を育成する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学活や道徳を縦割り班で実施するなどして、学習形態を変えて実施した。異学年の考え方に触れたり、自らの意見を発表したりすることで、考えを深め合うことができた。 ○ メラリンピックやイキイキ文化祭において、ゼロから作り上げることを経験したことによって、自分たちで考え、行動する力を育てられた。また、自分たちの力で作り上げる経験を通して、達成感や自己肯定感を高めることができた。 ○ 生徒が抱える不安や悩みなどに、教育相談で複数の教員が関わる機会をつくり、組織として居心地の良い学校づくりに努めることができた。また、学期に1回、全生徒対象の教育相談を実施することで、十分な生徒理解と個別指導の機会とすることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ 湯前中学校との対面での交流会が、久しぶりに実施できたことはとても良かった。今回のように、縮小した形での交流会でもよいので、今後も継続して実施してもらいたい。 ○ メラリンピックやイキイキ文化祭が会場制限なしとなり、以前の形で実施されたのはとても良かった。村民にとって、子ども達の活動を見ることができ、とても楽しみである。一生懸命に活動する姿を見ることができて、とてもよかった。 ○ 各行事等において、生徒たちの活躍する場面や成長した姿を見ることができ、先生方のご指導に感謝したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒理解の時間において情報を共有し、更に日々の指導に生かせるよう連携を深める。 ○ 家庭との連携を深め、生徒一人一人に寄り添った生徒指導や積極的な生徒指導に努める。 |
| | (2) 達成感や自己肯定感（自己有用感）、社会性、協調性の向上 | 体験活動や行事等を通して、自己肯定感や社会性の醸成と根気強く問題解決に臨む態度を育成する。 | | | | | |
| | (3) いじめや不登校の未然防止と的確な初期対応 | 生徒指導の三機能を生かした積極的な生徒指導によるいじめや不登校の未然防止と的確な初期対応に努める。 | | | | | |
| 3 体と力と安全管理の徹底 | (1) 望ましい生活習慣や運動習慣の定着 | 食事や運動、睡眠等をバランスよく配分した生活の重要性を理解させ、自立に向けた生活力の育成を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ 修学旅行における震災遺構見学などの防災教育や避難訓練を計画的に実施し、講師の方の話の聞き取り、体験したりすることによって、日常生活を振り返らせ、日頃の備えが大切であることを考えさせることができた。 ○ 給食時の放送や給食室前の献立表などによって、給食が工夫されていることへの理解が進んだ。また、調理員さんに感謝して、準備や片付けにも取り組み、残食0を目指して毎日食事をすることができた。 ○ 自分で作る弁当の日を実施し、自分なりの工夫を実践してお互いに賞賛し合う機会を設定することができた。 ○ 校内掲示板の保健室コーナーでは、生徒や職員が足を止めて掲示物を見るような工夫がなされており、自分の身体のことや健康に対する啓発を行った。 ○ 外部講師を招き、食育指導やブラッシング指導をしていた。日常生活に生かせるようにした。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ 中体連秋季大会では、ソフトテニスも男女で県大会に出場し、部活動で頑張っているのがわかる。剣道男子団体で3位入賞したのは素晴らしい。また、県駅伝大会にも初出場することができ、子どもたちの活躍は村民にとって大変嬉しいことである。 ○ 能登半島地震は記憶に新しいところであるが、宮崎県でもそのような地震がいつ起きてもおかしくない。防災教育の充実を図っていただきたい。 ○ 卒業して村を離れるが、親元を離れて寮生活や下宿生活になることを考えると、災害時に対応できるような防災知識や行動を身に付けて卒業してもらいたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育については、本年度の実践や実績を継続しながら、工夫や改善をして継続して取り組んでいる。 ○ 過去の大地震や災害での教訓等を整理し、避難訓練や防災教育の工夫や改善を図る。 |
| | (2) 食育の充実 | 食育を通じた適切な健康管理力を育成する。 | | | | | |
| | (3) 安全教育的の徹底 | 安心・安全な学校づくりに努める。 (安全意識の向上・設備の安全点検・安全管理の徹底) | | | | | |
| 4 地域と連携による開かれた学校づくり | (1) 連携と協働による開かれた教育活動の推進 | 連携と協働による地域学校協働活動を推進し、学校の教育活動を通して、積極的に地域への貢献を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○ 村民の方々を借りながら、村応援プロジェクトや地域学習などを通して、村の資源や村民の方々への思いなどをたくさん学ぶことができた。また、SDGsの学習や情報モラル教育など、外部人材を活用した学習を進めることができた。 ○ 年間にとわって企画された村応援プロジェクトを通して、村の自然や資源・産業の在り方など幅広く学ぶことと、積極的に地域に貢献する意識を高めることができた。 ○ 定期的に西米良中だよりやホームページの更新を担当の先生が中心となり、情報発信に努めた。 ○ コンプライアンスについては、職員研修を実施し、教員の不祥事防止に努め、教職員としての在り方等について再認識し、風通しの良い職場づくりに努めた。また、チェックリストを活用した定期的な振り返りの場を設定したり、文書による啓発を行ったりした。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も、学校便りやホームページにより、村民に向けて子どもや学校の様子など情報発信に継続して取り組んでいきたい。 ○ 行事が多いとの意見は、生徒や保護者から出ていないか。もし、生徒たちや先生方の負担が大きいようであれば、検討も必要ではないかと思う。 ● 部活動の結果等を発信してほしい。以前は修学旅行も含め、ホイホイラインで村民に知らせていた。村民への報告がほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度の実践や実績を継続しながら、工夫や改善をして継続して取り組んでいく。 ○ 教育委員会に協力を依頼し、必要な情報等については、ホイホイラインで知らせてもらうように取り組んでいきたい。 |
| | (2) 学校便りやホームページによる情報発信 | 学校便りやホームページを活用して、積極的に情報発信を行うとともに、学校生活の様子を具体的に伝えて情報を共有し、改善に役立てる。 | | | | | |
| | (3) コンプライアンス意識の徹底 | 教育公務員・西米良村民としての自覚をもち、コンプライアンスの徹底を図り、地域の学校としての村民の期待に応えることに努める。 | | | | | |
| 次年度の方向性についての校長所見 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校・生徒・地域の実態を踏まえて、ふるさと西米良を離れても、社会性を身に付け、自ら考え、主体的に行動することができる生徒の育成に努める。 ○ 菊池の教えを基盤に、保護者や地域の方々との連携・協働の下、Well-beingを意識した知育・徳育・体育の充実とその調和を図る。 | | | | | |